**5月24日　ピクスタ株式会社　代表取締役　古俣大介氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

　イスラエルでのカルチャーショックから行動を改めたという話がとても印象に残りました。似たような環境、似たような価値観の人が多い状況にばかり慣れていても大きな成長はできないと思います。学生時代は比較的自由な時間も多いと思うので、今の価値観にとらわれず様々な経験をしていきたいと思いました。「最適化へのチューニング」ということで、顧客のニーズに合わせて事業を改善していく過程は大変そうだけど楽しそうだと思いました。その成功のためには、広い視野を持って社会を見る力が必要だと感じたので、どのような力をつけていきたいです。経営者の方々は皆、高校生や大学入学直後から行動を起こしているのだと考えていて、自分とは違うと思っていましたが古俣さんが高校～大学の初めまでは優等生ではなかったという話を聞いて、誰でもやろうと決めれば道がひらけるのだと再認識しました。やるべきことをしっかりやって。納得のいく人生にしたいと思いました。ありがとうございました。(経済学部国際経済学科1年)

2年間こもって勉強した期間が無駄だったという言葉にショックを受けた。インターンというもの自体私はまだよく理解していないが、知識がなくても熱意だけで何とかなるものなのだろうか…。コーヒー豆の練習も「練習」なのに月30万までいったというのはすごいことだと思う。「起業」というと大きな行動だと思っていたが、ピクスタを始める前にいくつか、そしてそのうち一つは生活費稼ぎだったという…。こんなにも軽い気持ちで始めてしまえるのかと大変驚いた。私はやりたいことだけは決まっているので、（知識を集めつつ）アクションを起こしていきたい。ジャンプのためにしゃがむこと、この心強い言葉を覚えておきたい。（経営学部　経営システム科学科　1年）

４回も事業を立ち上げたというエピソードから、本当に好きなことでないと続かないということがよくわかりました。自分の両親もリーマンショック前後に自営業を始めたので、軌道に乗るまでが一番大変な時期だということを身にしみて感じています。だからこそ、やはり本当にやりたい事業でないと、色々乗り越えられないのだと思いました。個人的に写真を撮るのが好きで、PIXTAも存じ上げていたので、PIXTAのような有名な会社でも苦労した過去があるのだということに感心しました。（経営・国際経営１年）

今回の講義を聞いている中でおっしゃっていた「自分が本当にやりたい分野でないと続かない」ということは全くその通りだと思いました。また、最初の３年間は本当に大変だった話を聞いたとき、そこまで厳しい状況になっても一生懸命頑張ったり、耐えたりできるのは、本当に好きでやりたいことだからなのだろうな、と思いました。そして、今回の講義では「事業を立ち上げて大きくする方法」について聞くことができたので、とても面白かったです。今までの講義よりも深く知ることができてよかったです。また、ピクスタ株式会社さんのインターンについてのお話はとても興味を持ちました。特に、インターンをする意味や自分のキャパはアルバイトなどでは越えられないという言葉がすごく印象に残りました。自分がインターンに行っても会社に迷惑になるのでは、とも思っていたので、できるかできないかは別として任せる！と聞き、問題は自分のやる気にあるのかなと思いました。（経営学部・国際経営学科・１年）

起業する理由は起業家それぞれにあるが、皆自分が考える「普通」とははるかに違うことを経験していると感じた。古俣氏は起業するにあたって、ガイアックスに入社することでまずゴールを知ろうとしたという。これは自分には考えられない発想であり、その期間が無駄になったら…ということを考えてしまう。しかし、起業に最適解を求めても成功しないから、とにかく幅広い分野に手を出して、自分に合うものを探そうと思う。そこで自分が本当にやりたい分野を見つけ、続けていきたい。古俣氏はこういう経験を通して今のPIXTAのようなやりたい分野を見つけられた。その中でも、アマチュアの方でも写真を投稿でき、評価を受けることができるというニーズに合った経営ができることはすごいと思う。ただ、それぞれの企業の分野ごとに合ったセオリーがあるのなら、時代の流れを読んで多くの経験をすれば不可能ではないと感じた。そのためにもインターンシップは大切であると思う。実際、今自分は社会に無知であるから世界が広がる。(経営　会計情報1年)

クリエイターの９５％がアマチュアだと聞いて驚いた。あまり知らなかったコンテンツ産業について知ることができて自分の進路を考えるうえで参考になった。今までの講義ではインターンについて軽く触れる程度だったが、古俣さんはインターンに参加するにあたって得られる相互利益について話してくれて参考になった。(経済学部・国際経済１年)

現在では上場されていて成功体験の話をされるのかと思ったらが、大学時代から一年目で留年されたり、起業後も多くの困難を経験されていることに驚いた。ただ、古俣さんの違うところには留年後はきっかけを得て２年間勉強に打ち込まれ、また会社でうまくいかない時もあきらめることなくチューニングをおこなうことで成功されているので、ひとつのつまずきにたいする姿勢が違うと思った。自分が何をやるかをまだ見つけられてないが、原体験を見つめなおしていきたい。(経済学部　国際経済学科　１年)

「18才、19才くらいでスイッチが入る体験」という言葉がとても印象に残りました。最近やっと大学の生活に慣れてきて少し自分に余裕ができてきて、何か刺激がほしいと思うようになりました。時間がある大学生の今だからこそいろんなことに挑戦できるので、「スイッチが入る体験」をしてみたいです。また、やはりインターンが大切なのだと思いました。会社の一員として働くことで世界が違く見えるようにもなると思います。私は今、どうしてもやりたいということは決まっていませんが、だからこそ、インターンのように今までの学校という世界とは違う世界に触れることで何か見つかる可能性が高くなるように思います。「本当にやりたいことじゃないと続かない」「やりたいことだと続けられるし、いつか成功につながる」という言葉を聞いて、すごく納得しました。大変なことでも、自分からが好きだと思うこと、満足感、達成感を得られることなら続けられると思います。古俣さんは昔から興味があることに挑戦していたからこそ、自分が本当にやりたいと思えることを見つけられたのではないかと思うので、自分の興味のあるとこから見つけてみるのは楽しそうだと思います。（経営学部経営学科1年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

「実は就活する必要もない」という言葉が印象に残った。自分が本当にしたいことを見つけ、それを実現できる道であれば、そちらに進み続けるという選択肢もある。日頃からじぶんが人生をかけたいと思う分野を見つけていきたい。（経済・法と経済）

PIXTAの商品はデータであるからこそ、時期や時代によって変わる客層ニーズに応えることが非常に大変だと感じました。世間の流行に敏感になる力をつけていきたいと思います。また、一気に成長した企業も一定の期間は力をつける時期があるという話をお聞きして、それなれば学生のうちに取れる資格は取得して、知識や経験を積んでいけば少なくとも起業の土台くらいになると思うので、積極的に資格の取得に挑戦してみたいと思います。（経済学部・経済システム学科・１年生）

**授業スタッフの感想**

多くのアンケートに「自分のやりたいことじゃないと仕事は続かない」ということが書いてあった。今までも多くの講演者の方がおっしゃっていたけど、古俣さんは実際に3回目の起業で成功しているにもかかわらず、それを捨てて新たに見つけた自分のやりたいことを選択し4度目の企業を行った。だからこそ、より一層の説得力があったのだと思う。多くの人は最初、好きなことを仕事にしようと考えていると思うけれど、いつの間にか好きなことをするための就“職”ではなく、いい企業に入るための就“社“とそれ自体が目的になってしまい、大川さんのおっしゃっていた「手段の目的化」に陥ってしまう。そうならないためにも古俣さんがおっしゃっていたように自分の好きなこと、やりたいことをよく理解し、大川さんがおっしゃっていたように1本芯の通っている、ぶれない人間になりたいと思った。

　また、成功するまであきらめない。ということはやっぱり好きなことでなければ、自分の考えに自信や信念がなければできないことだと思うので、多くのことは繫がっているのだと改めて実感した。